

風水害に備える

大雨や台風などは、地震と違い時期や規模をある程度予測することができます。あらかじめ自身の災害リスクや避難行動を考えておくなど、事前に備えておくことが大切です。

◆ハザードマップの活用

(各種ハザードマップの2次元バーコードを記載しています)



「ハザードマップで色が塗られていない=安全」ではありません。安全マップではないことに注意が必要です。

洪水ハザードマップ

想定される最大規模の降雨によって、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域とその浸水深の最大値を示したものです。



土砂災害ハザードマップ

梅雨時期の長雨や台風に伴う豪雨などにより、土砂災害が発生した場合に被害がおよぶ恐れのある区域を示したものです。



内水ハザードマップ

想定される最大規模の降雨によって、内水氾濫による浸水が想定される区域とその浸水深の最大値を示したものです。



高潮ハザードマップ

想定される最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、浸水が想定される区域とその浸水深の最大値を示したものです。



◆災害リスクや避難方法を確認しよう

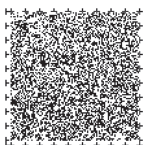
実際に各種ハザードマップを見て確認しましょう。

Check 1

自宅等の災害リスクを確認

- ◎浸水や土砂災害の区域はどうか。
- ◎建物が倒壊・流出する可能性は。
- ◎どの程度浸水が続くのか。
- ☺自宅周辺や生活エリアも確認しましょう。
(車での通勤路、買い物ルート等。)

ハザードマップに
Check 1 2 の
の記載があります。
直接書き込んで
おきましょう!



音声コード

Check 2

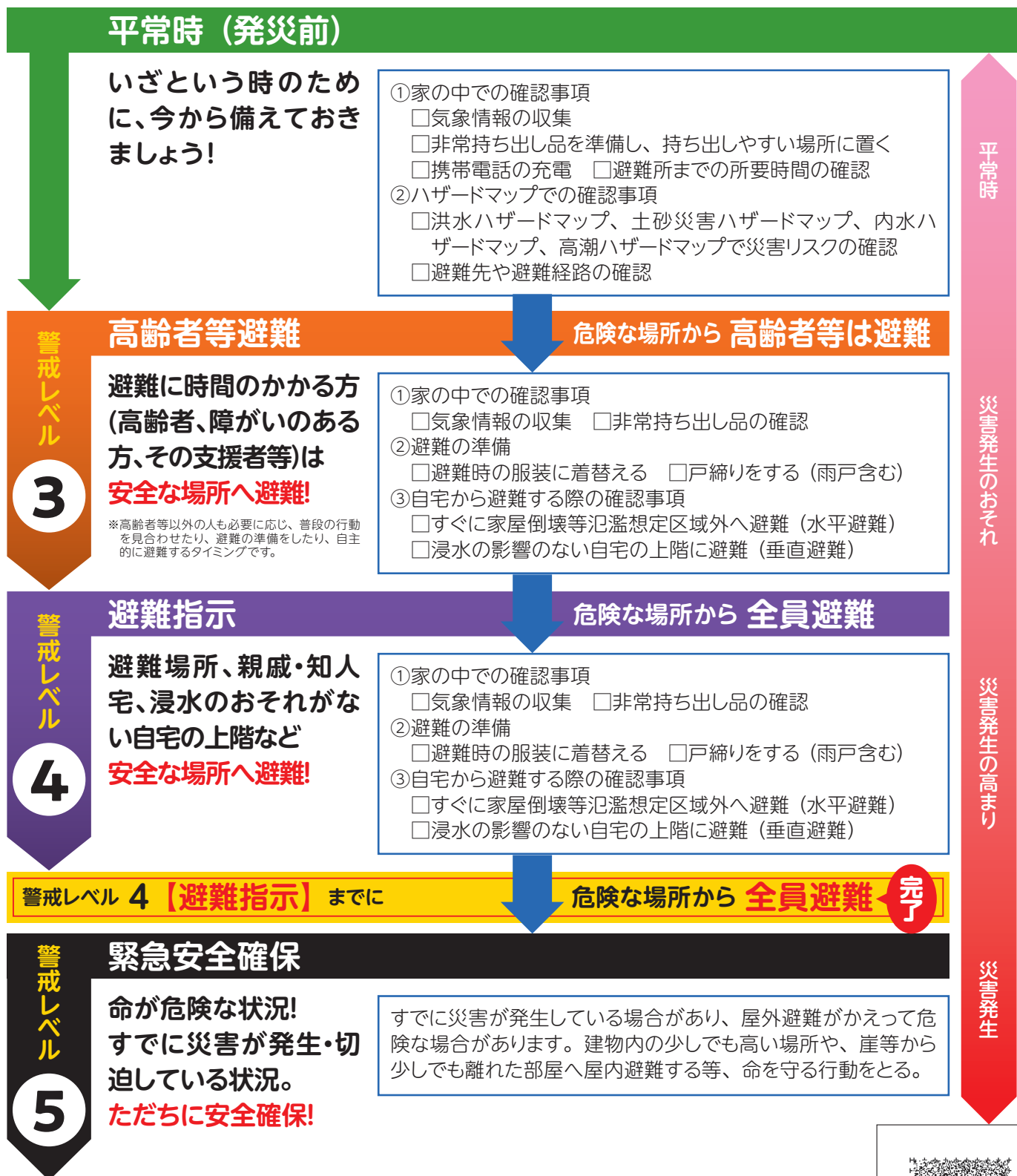
避難方法を確認しよう

- ◎避難の方法にはいろいろな種類があります。
- ☺詳しくは P12 チェック

◆避難行動を考えよう(マイ・タイムライン) ※避難行動についてはP7～8も確認。

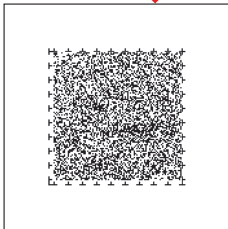
自身の災害リスクと避難方法を確認したことを踏まえ、自分自身や家族がとるべき行動について、「いつ」「誰が」「何をするか」をあらかじめ時系列で整理した避難行動計画(マイ・タイムライン)を考えましょう。風水害時の行動チェックリスト、避難判断のサポートツールとして活用できます。

(下記の確認事項は一例です)



※避難確保計画の作成(事業者に向けて)

令和3年7月に水防法及び土砂災害防止法が改正され、要配慮者利用施設において避難確保計画の作成や訓練の実施、また、それらを市町村長へ報告することが義務化されました。対象となる施設は「平塚市地域防災計画-資料編-」を確認してください。



音声コード

風水害に備える

◆今からできる大雨・台風対策!

ゲリラ豪雨以外の大雨をもたらす前線や台風は徐々に接近するため、事前に備えることができます。いざというときに困らないために、「今から」備えておきましょう。

情報収集先の確認

➔ P36 ~ 37 へ

- 気象情報や避難情報などの入手先を確認しておきましょう。
- 大雨や台風が接近しているときは、こまめに気象情報を確認しましょう。

避難先や避難経路の確認

➔ P38 ~ 41 へ

- いざというときに避難する場所（安全な親戚・知人宅や避難所等）を事前に確認しておきましょう。
- 避難経路を実際に歩いてみて、危険な場所（橋が近い、がけが近い等）がないか確認しておきましょう。

非常持ち出し品を準備する

➔ P26 ~ 28 へ

- 非常持ち出し袋は定期的に点検しましょう。
- スマートフォン・携帯電話だけでなく、充電器や充電用コードもあわせて持ち出しましょう。
- 常備薬がある人は忘れずに持ち出しましょう。

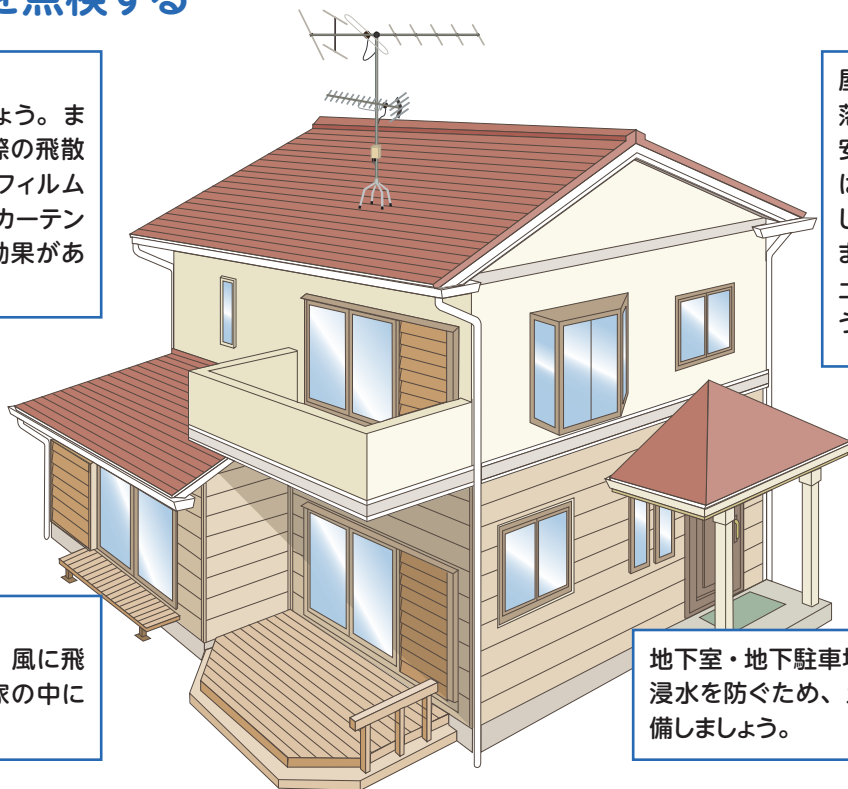
家の中や周辺を点検する

雨戸・窓ガラス

雨戸は確実に閉めましょう。また、窓ガラスが割れた際の飛散を防ぐために飛散防止フィルムを貼りましょう。厚手のカーテンも室内への飛散を防ぐ効果があります。

屋根・雨どい

落下を防ぐため、不安定な瓦やアンテナはしっかりと固定しましょう。雨どいに詰まっている落ち葉や土砂を取り除きましょう。



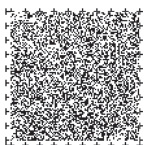
庭・ベランダ

物干し竿、植木鉢など、風に飛ばされそうなものは、家の中に入れてみましょう。

地下室・地下駐車場

浸水を防ぐため、土のうや止水板を準備しましょう。

!! 注意) 雨や風が強まる中で、屋根に上って補修作業をしたり、自宅周辺や田畑、川の様子を見に行くことは**大変危険**です。絶対にやめましょう。



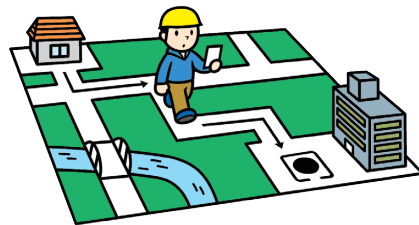
風水害時のいろいろな「避難」

「避難」とは、「難」を「避」けて、自分の身の安全を確保することです。

避難先は、市が開設する避難所に限らず、自宅の最上階、安全な親戚や知人の家なども含まれます。親戚や知人の家などへ一時的に身を寄せることなどを想定し、日頃から話し合っておくことが大切です。

水平避難（他の場所へ避難すること）

- 家屋倒壊等氾濫想定区域内にある場合
- 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）や土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が近くにある場合。
- 海や川に近く、深い浸水（2階以上など）が想定される場合。
- ➔その場に留まることが、著しく身体へ危険を及ぼす場所では、その場から水平避難（立ち退き避難）が必要です。
- 浸水がそれ程深くない（1階床上程度）が浸水継続時間が長い場合。
- ➔自宅の備蓄状況等により、水平避難も考えましょう。



垂直避難（同じ建物の上階へ避難すること）

- 急激な降雨や浸水により、水平避難をする時間がなく、屋外へ出ることが、かえって危険な場合。
- 海や川から離れているなど、浸水が浅く、2階以上に移動することで、十分に安全を確保できる場合。
- ➔無理に屋外へ出て、危険な中を水平避難するのではなく、自宅の最上階や山と反対側の部屋などの、より安全な場所へ避難（屋内安全確保）しましょう。

※災害時には、電気や水道などのライフラインが使用できなくなる可能性があるため、日頃から備蓄品を確認しておきましょう。



在宅避難

- 浸水がごく浅い場合や頑丈な建物やマンションなどで、自宅の被害が少なく、普段に近い状態で生活し続けることができる場合。（地震の場合も同様）
- ➔必ずしも避難所へ行く必要はありません。住み慣れた自宅で避難生活を送ることを考えて、家族全員分の備蓄品（食料や飲料水は1週間分程度）を用意しておくことが大切です。

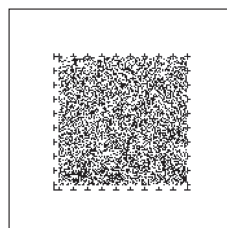
※「家庭で備蓄をしよう」P26～28へ



ペットとの同行避難

市では、ペットと一緒に避難所に行く同行避難が可能です。避難所内では、人とペットの避難スペースは分けられていますが、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人への配慮と、次のことをお願いします。

- ・あらかじめケージに入れる。
- ・餌やトイレシート等の持参。
- ・（ケージに入らない大型犬）リードや胴輪の装着。
- ・（迷子になってしまった時のために）首輪に迷子札を付ける。
- ・（ペットの種類により）耳輪や足環の装着。



音声コード